

子どもの才能を引き出すeducation誌

duccaro デュケレ Vol.12

日本経済新聞出版社 定価980円

公立中高一貫校
国立大合格
ランキング

わが子に本当に合う学習法を探せ!

算数メソッド 超厳選8

家庭で身に付けさせたいのは

学力よりも 「学び力」

“濃い夏休み”に
変えるコツ

「海外留学」
という選択肢

偏差値で中学を選ぶ時代は終わった!

学校選びの 新基準

新連載

内藤 誼人
「家族のユーマア心理学」



応用問題のための「じっくり考える姿勢」作り
「わかつちやった体験」で考える楽しさを知る

花まる学習会

Point 1

触れる、動かす、工夫する…
「実感」が得意になる秘訣

身の回りのものを通して数を理解すると、図形や計算の意味を実感できるので、単に解き方を覚えるよりも効果的だ。自分で工夫して問題に取り組むことで、空間認識力や発想力は伸びていく。



Point 2

「わかつちやった体験」が生む
自己肯定感

花まる学習会では、考え抜く子を育てるため、自力で答えを導き出す「わかつちやった体験」をたくさん経験させる。自分の学力の成長を認められるようになることが、自分のペースで粘り強く考えられるようになるための第一歩だ。



ゲーム感覚で算数の基礎力を養う「なぞべー」など、学年ごとに「わかつちやった体験」ができる教材がある。

「速く解くこと」のみを親が重視すると、答えばかりを気にして、考えることを放棄する子に育ちやすい。初見の問題では、鉛筆が止まってしまうこともしばしば。学習塾・花まる学習会が重視する「わかつちやった体験」の積み重ねで「学ぶ楽しさ」を知った子どもは、自発的に調べ、考えられるようになる。受験を乗り越える下地を作るだけでなく、将来どんな状況でもたくましく生き抜くための力を身につけることを目指した学習法だ。

このメソッドを始めるには?



「算数脳がグングン育つ「手作りパズル」のすすめ!」(草思社) 1208円

左記のほか、算数脳シリーズの書籍多数。※教室は現在キャンセル待ち。
花まる学習会
048-835-5870
<http://www.hanamarugroup.jp/>

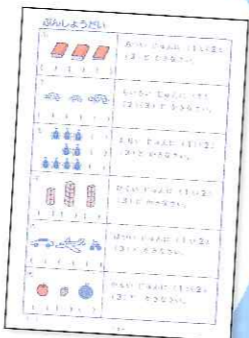
図形問題に強くなる!
「図形センス」を磨くプログラム

エジソンクラブ

Point 1

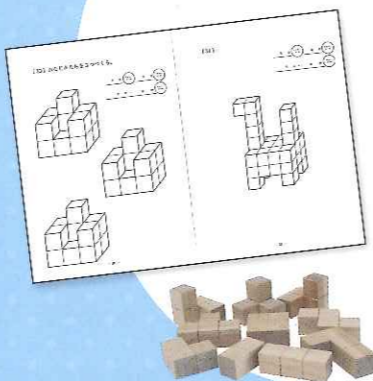
計算の前に「算数のことば」を理解する

まずは、小1の1~2学期のうちに、「大きいと小さい」「広いと狭い」など、算数に必要な概念をきちんと理解させる。この理解が不十分だと、子どもにとっての算数が「与えられた数字で機械的にこなすもの」になってしまう。そんな状態では、応用力や思考力は育ちにくい。



Point 2

「補助線が見える!」
図形の感性は育てられる



たくさんのピースを使って、試行錯誤しながら指定された形を作る平面・立体パズル。一筋縄ではいかない難問にも、子ども達は思考力をフルに使って楽しく取り組む。図形問題を解くのに欠かせない「補助線や、立体の裏側を見るための感性」を育てるプログラムだ。

「算数センス」を身につけるため、エジソンクラブの教材は、特に低学年の基礎学習に力を入れている。子どもがつまずきやすいかけ算・割り算・分数などの単元をきちんと理解するのに欠かせない、「算数的なもの見方、考え方」を養うのが目的だ。また、図形センスを磨くパズルも人気が高い。試行錯誤を繰り返しながら集中して取り組むうちに、自然と粘り強さや集中力も身につけてくるといふ。

このメソッドを始めるには?



練習帳A-1 (1年生用) 300円、
積み木123+ノート3冊セット3960円など

ホームページから教材を購入可能 (<http://store.shopping.yahoo.co.jp/ejisonclub/>)。エジソンクラブ教材を利用している塾も。
エジソンクラブ
03-5383-5415
<http://www.ejisonclub.co.jp/>

文章題を「楽しく」解けるようになる!
スケッチブックを使った絵図化メソッド

どんぐり倶楽部

Point 1

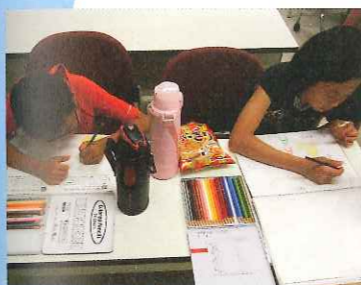
「スケッチブックに絵を描いて」
文章題を解く

メソッドの一番の特徴は、問題文を読んだ後、すぐに立式しないこと。問題と並べるのは「スケッチブック」。問題を正確に絵図化することが最初の第一歩。言葉や式ではなく、自分で描いた絵図をよく見て比べ、移動変形させながら問題を解き進める。



Point 2

1週間に2問でOK!
大切なのは「自分で考えること」



教室の様子。色鉛筆を片手に問題に取り組んでいる。

パターン学習では、思考力や想像力は育たない。大切なのは、子どもがノーヒントで問題を絵図化し、試行錯誤すること。普段なら週2問、夏休みでも2日に1問でOKだ。リラックスできる環境を作り、子どもがのびのび考える様子を見守ろう。

「理解するとは、言葉を自分の力で視覚イメージに変換すること」算数教室・どんぐり倶楽部を主宰する糸山さんはこう語る。問題を解く過程を絵に描ければ、意味がわかった上で正しい立式をすることができる。パターン学習では難しい、「どんな問題に対しても立ち向かうための、考える力」を身につけることを目指しているそうだ。子どもが楽しそうに絵を描き始めたら大成功。子ども自身の想像力や感情を大切にしたいメソッドと言える。

このメソッドを始めるには?



文英堂「スーパーエリート 問題集 さんすう 小学1年 [新装版] (中学受験を目指す)」/1,313円 ※1~3年生用まで発売
別冊付録として「どんぐり問題 (全絵図解答付き)」が掲載されています。

どんぐり倶楽部
<http://dl.dropbox.com/u/78229866/ducare.html>
(HPに学力診断テストあり)

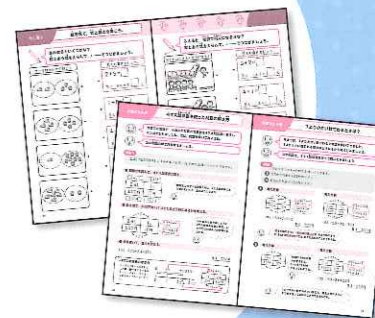
「文章題が苦手…」を乗り越える!
ストーリーをイメージする解法

田中博史の算数授業メソッド

Point 1

低学年は「絵」、高学年は「表」
ストーリーをイメージするクセづけ

ストーリーをイメージする方法は、学年によって異なる。低学年の「絵解き文章題」では文と絵を結びつけるが、高学年の「4マス関係表で解く文章題」ではやや抽象化され、文を表に整理。それぞれ絵や表を描いたあと、式に結びつけて問題を解いていく。



Point 2

飽きっぽい子も続けられる!
ゲーム教材で算数の知識を体得

子どもが苦勞するのが、算数の反復練習。「分数トランプ」などのゲーム教材は、飽きっぽい子でも楽しんで取り組めるように田中先生が開発した。ゲームなどを通して算数を「体験」することで、実際に使える知識が身についていく。



「算数は数字の答えを出せばいい」という子どもの考えを覆すことから始めるのは、筑波大学附属小学校で教える田中博史先生。文章題で重要なのは、ストーリーをイメージすること。特に低学年は単純な問題が多く、文を読んですぐ立式できるため、つい解けた気になってしまう。しかしイメージ化を疎かにすることは、高学年でつまずききっかけに。せつかな子でもじっくり考えるクセをつけられるメソッドだ。

このメソッドを始めるには?



「わくわくさんすう」忍術シリーズ1~5巻
1,2巻998円 3,4巻1260円 5巻1050円

家庭でできる「算数忍者シリーズ」のほか、『田中博史の算数授業55の知恵』(文英堂)「プレミアム講座 田中博史の算数授業の作り方」(東洋館)など、授業メソッドの書籍も多数。